

2015年1月9日



関西テレビ よ〜いドン放送 番外編



ロザンのコーナーではありますが
子どもたちのがんばっている姿
テニス道をモットーに指導されている
今井さんの姿はけっこう入れることは
できていると思います。
スタジオの出演者のみなさんからも
いい反応はいただけました。
説明したりない部分も
いくつかあるかとは思いますが、
朝の番組(主婦目線)ということで
マニアックになりすぎないように
作っておりますので、何卒ご理解を
よろしくお願い致します。

ということでしたので・・・
番外編でお伝えします。

Waccの部活テニスの在り方！

我々が考える部活テニスは、

みんなで一緒にうまくなりつよくなる

ということです。もちろん、学年によって責任や言動は異なることは指導しています。

みんなで(組織的)に取り組むことで、ジュニア時代に必要な育てるための

競争原理 相乗効果 反面教師



などみんなで切磋琢磨する環境が構築されます。

こういった組織活動は、社会性の一環にもなるでしょう。

さらに、ジュニア育成・強化には**伸び代**が必要です。

これは世界で通用する選手を育成・強化するための秘訣のようなものです。



Waccの組織的活動とは？

大手OA機器メーカーでもある株式会社リコー就職7年で培った、

組織論をジュニア育成で実践

しています。



組織の持つ精神や理念、使命や目標に行動における指針や方針など
チームとしての価値観をみんなで共有しながらテニス道を追求します。

また、複数人数で取り組むデメリットにもなる他力本願をなくすために強い意志とやる気の

象徴でもある**強気合い**という造語を掲げ一人一人が活発に取り組んでいます。

以下がWacc ジュニアの2014年について取り組んだ内容です。

活動理念:何事にも囚われず一瞬懸命となりテニス道に励む

活動指針:与えられた環境の中で自らを発揮する

自ら行動し自ら創り出す

自分のやっていることに命を懸ける

努力は必ず報われるという信念を持つ

結果を出し原因を追究する

常に高い目標を持ち取り組む

全てに感謝する

活動の目的:みんなで本戦 みんなで全国大会

活動の目標:至誠(しせい)を持って取り組む

主な取り組み内容:あいさつをする・掃除をする・素直になる・ありがとうを言う・常に前向きな発言をする

提案:自分の役割について考え気づくこと

2014年最終課題:人財になること

その成果の一つには・・・

Waccの テニス道 について

我々が考えるテニス道は、

【たかがテニス されどテニス】ということです。

たかがテニスは、テニスが強くなったとしても人間性がおろそかでは、誰も応援してくれません。テニスを通じて社会性を養い、誰からも親しまれる人になってほしいと思います。

そのために、挨拶はもちろんハイオアシス

(ハイ・イエ・オネガイシマス・アリガトウゴザイマス・シツレイシマス・スミマセン)

がはっきり言えるようになり、自分のことは自分で、

ハウレンソウ(報告・連絡・相談)

の出来る選手になることを指導しています。

また、日ごろの取り組みは、

5W3H(When・Where・Who・What・What for/how to・How much・How was)

を常に意識し、

PDCA(Plan・Do・Check・Action)

によって練習を考えて取り組み、目標を達成することを指導しています。

その手段の一つに

中長期計画シート

があります。



されどテニスは、どうせやるなら言い訳や妥協を許さずにとことん勝負にこだわり、日本をリードするあるいは世界をリードするような選手を目指そうということを指導しています。



なぜ私が指導者の道を選んだか？

指導を意識したのは27歳の誕生日でした。

その頃、大手メーカーの実業団に所属していた私は、日々のOA機器の販売に明け暮れ、週末は大好きなテニスに励み、そして大好きなテニスを満足させるために仕事帰りはジムへ通い自分を追い込み週末に備えていました。そんなこんなで、27歳の誕生日にふとこのままでいいのかと思い、今までのテニス人生を振り返りこれからのテニスとの

係わり合いについて考えました。そんな時ある映画に出会いました。『ザ・エージェント』です。外国では『ジェリーマグワイヤ』と言われています。この映画は私にとって今後の私の生き方を決める大切な出会いとなったのです。それからとにかく自分の目標のために動きました。

海外ではどんなことを取り組んでいるのか？なぜ世界で日本人テニスが思う通りに勝てないのか？

と疑問を持たば、有給休暇を使いアメリカ・スペイン・オーストラリアに体験視察をしました。

また事前準備が必要だと思えば、積極的に試合会場に出向きコーチや学校の監督と話し

現状を把握しました。そんな活動の中で強く感じたことは、単純に外国もたいしたことはしていない。

日本人でもいける。日本人の方が・・・と思いました。そして確信をもとに脱サラすることにしました。

当時私が働く企業は報酬もよく周りから疑問の声もありました。

しかし持ち前のやる気、行動力、実現力によって脱サラを決行しました。

もともと私が勤めていた会社の【まずやってみる】という方針が私の考えと一致し、

さらに配属先の上司は私のやる気と行動力を開花させ実現力をも培うことが出来た結果です。

その上司も会社を辞める時には「**やっと自分の道を見つけたのだな**」と喜んでくれました。

私にとっての強みは、大企業で働き素晴らしいビジネス経験や上司に巡り会うことで情緒を培い、組織論や営業力、ちょっとした経営学なども学べました。それが今の選手育成強化にとって素晴らしいアイテムとなり私の育成強化における基盤となっています。

伊藤竜馬の実績は、狙い通りの成果なのです。



今後の展望について

実現しなければならないことは数多くありますが・・・

○Wacc内のトレーニングルーム・エディケーションルーム設置

○神村学園(通信制単位制)との提携

○NPO法人JapaneseWay 認可

を経て、小学生～高校生に加えプロフェッショナルへの指導を考えています。

また、これらの取り組みが人材育成につながることを証明するための活動を実施します。
スポーツの観点からの人材育成を構築し教育分野へ参入します。

そして、富田林市や近隣大学との連携による産学共同地域密着型のスポーツチームならびに施設を創造します。

将来は、世界のトップテニスプレーヤーが日本にテニスを学びに来る日を目指して、育成・強化ノウハウをさらに進化させたいと想います。

やらなければならないことは沢山ありますが、地道に少しずつ実現させたいと思います。